

カリキュラム(計画) 平成30年度外国人生徒等支援者研修会

作成者：幕田 順子

養成・○研修 / 基礎・○専門・○支援員 (該当するものに○)

★参照したモデルプログラムNO. (報告書 pp.207-244) 下線：内容・項目 (pp.72-76)

日時・場所	2018年8月8日(水) 13時～15時45分 公益財団法人福島県国際交流協会			
実施団体・機関	公益財団法人福島県国際交流協会			
研修・授業名	平成30年度外国人生徒等支援者研修会			
受講者	<ul style="list-style-type: none"> ・人数:26・受講者の立場 教育委員会、教員、支援者(外国籍者・日本人) ・年齢層:20代(1)名 30-40代(6)名 50代(7)名 60歳以上(12)名 ・その他: 			
演題・テーマ☆	教科学習につなぐ日本語支援 pp.72-76)を反映		☆研修内容(報告書)	
到達目標	①外国人児童生徒の教科学習と学習活動における困難点(箇所・部分)が了解できる。②外国人児童生徒の学習支援に必要な手段や方法についての情報を得ることができる。③外国人児童生徒の個に応じた学習計画を立てる方法を知る。			
活動展開(分)	★	形態	留意点	参考資料
導入： 福島県の帰国・外国籍児童生徒の状況と福島県の取組みについて(15分) 福島県教育庁義務教育課指導主事 芳賀沼彰 展開： 教科指導につなぐ日本語支援(140分) 模擬体験：外国児童生徒の立場に立って考える(13時25分～13時35分) ① 最初に入学した時 ② 教科学習のとき ワークショップ1：教科書の教科(6年生算数)単元を提示する 13時35分～14時20分 ・外国人児童生徒にとっての困難点を把握する練習 ・必要なサポートの方法について考える練習。	③	講義	外国人児童生徒支援の法的根拠 最近のニュース 外国人児童生徒と特別支援 学びのセーフティーネットなどについての情報提供 全部中国語で授業をする 教科の専門用語を第二言語で表現してみる。	福島県国際化統計 新聞記事 支援関連情報 DLA教材
		ワークショップ	ワークショップ1は3者(サポーター、教員、教育委員会)が入っているグループ リライト、日本語学、対照言語学の成果を活用する。	東京書籍小学校6年算数

<p>14時20分～14時40分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各グループと講師間のやりとり ・講師の側からのサジェスション（学習者の困難点と必要なサポートの方法について） <p>ワークショップ2：学習活動（観察・体験・実験型）（4年生理科）の事例を提示する</p> <p>14時40分～15時30分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教室内外で外国人児童生徒が学習活動をするにあたっての困難点と必要なサポートについて考える。 <p>15時20分～15時40分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各グループと講師間のやりとり ・講師の側からのサジェスション（学習者の困難点と必要なサポートの方法について） ・個別の指導計画の立て方について <p>まとめ： 外国人児童生徒支援の意義の再確認</p> <p>その他： 個別相談申込書に書かれた内容の個別相談 15分×4回×2人（市瀬、中川）＝8人</p>	<p>⑳</p> <p>㉑</p> <p>㉒</p>	<p>ワークショップ2は同業者同士のグループでのワーク AcademicLanguage Proficiency ＝ALP（教科学習言語能力）についての理解</p> <p>JSLカリキュラムのAUカードの活用を知る。</p> <p>個別の指導計画について</p> <p>なぜ外国人児童生徒の支援をするのか。 社会的役割についての認識 外国人児童生徒の課題性のみ強調することの問題点</p>	<p>東京書籍小学校4年理科</p> <p>JSLカリキュラム</p> <p>特別の教育課程資料</p>
---	----------------------------	--	--